



300号記念特集・学生のエッセー ぱるらんど300号に寄せて

大学院音楽研究科修士課程器楽専攻（ヴァイオリン）2年 伊藤太郎

今回はこのような記念号にエッセーを寄稿することができ、大変嬉しく思っている。国立音楽大学に通いはじめて6年目になるが、学年が上がる毎に図書館のお世話になる頻度は上がっており、なんとなく手に取る本にも演奏のためのヒントがあったり、ちょっとした言葉にハッとさせられたり、締切迫る(!!)論文の資料探しなどなど…いつも演奏の助けや、刺激を受けている。

この図書館には国立の附属高校3年の時から通っていて、その時からこのぱるらんどの存在は知っていたのだが、あまり手に取る機会がなく過ごしていた。

大学に入学してから2年ほどして、ふらっと立ち寄った図書館でなんとなくぱるらんどを手に取り、「私のおすすめ」のコーナーで自分もお気に入りだったCDを紹介していたことが、ぱるらんどを毎号読むきっかけになった。顔も知らない、もちろん会ったこともないこの大学の学生と、ぱるらんどを通じて好きな演奏や楽曲に対する思

いを共有できたということが本当に嬉しく、新鮮な体験だった。

当然、毎号読んでいても自分の知らない図書、CDを紹介していることの方が多いのだが、面白そうなものがあると読んでみたり聞いてみたりして、新たな感動に出会うきっかけを与えてもらっている。図書館はとても静かな空間だが、ぱるらんどを読むようになってからはたかさんの本や楽譜がタイトル通り語りかけてくるようで、図書館がとても賑やかな場所に感じ、カタイイメージがあった図書館に通うのがとても好きになった。

最近、演奏活動で忙しい中でも、積極的に図書館に足を運んでいる。特に何かを探すわけでもなく本に囲まれながら過ごす時間も、心に余裕を与え、より良い演奏への活力となっているように感じる。こんな時間も、大切にしたいかけがえのないひとときである。

いとう たろう ● 『Library Data』のコーナーは毎回必ずチェックしているのですが、「春の祭典」のスコアがいつでも上位に入っているのが興味深いです。

300号記念特集・学生のエッセー 『わたしの図書館の使い方』

演奏・創作学科鍵盤楽器専修（ピアノ）2年 北沢彩乃

図書館とは学校の中で唯一静かな空間であったように思います。私はその静かな空間が好きで、休み時間などによく図書館に通っていました。しかし、私の人生の中で読んだ本は100冊を超えるのか…。本を読もうと思っても時間がなかつたり、読みたくて借りても貸し出し期間内に読めなかつたりしてなかなか図書館に行っても本を借りることをしませんでした。次第に図書館に足を運ぶことが少なくなり、本もどんどん読まなくなりました。そんな図書館とは縁がなくなりかけていた時に大学に入り、大学の図書館には本だけでなく楽譜やCD、DVDがあることを知りました。

私は現在授業の空きコマの大半を図書館で過ごしています。自分の実技で扱う楽譜を借りたり、CDを借りたりして勉強しています。また、休日にはミュージカルが好きなので4階でDVDを借りて鑑賞しています。最近では新聞を読んでいて、図書館にはとてもお世話になっています。大学に入り、私にとって図書館は憩いの場になりました。

国立音楽大学附属図書館を初めて利用したのは1年生の4

月。基礎ゼミでした。図書館は本やAV資料を貸し借りする場所ですが、ライブラリーホールでは毎日たくさんの学生が勉強や談話をしています。学生たちが一番最初に図書館の利用方法などを教えていただいたのがライブラリーホールでした。図書館内の見学で一番印象に残ったことは、レポートなどで困ったときの相談に乗ってくれるということです。私は図書館について大学生になりたての時期に教えていただいたことで図書館をたくさん利用しようと思いました。これからも国立音楽大学の図書館は学生のための図書館であることを期待しています。

図書館では様々なサービスや企画・展示がいろいろな場所で設置されています。私は時々その企画を見ながら、学生にもっと図書館に足を運び、展示をたくさんの人に見てもらえればいいなと思っています。そのために私は図書館でやっている企画をみたら、友人に教えてあげようと思います。図書館で展示している企画は国立音楽大学の学生にとって身になるものばかりです。学生の皆さんにもっと図書館について知ってほしいです。

きたざわ あやの ● 大学生になってから実技だけでなく様々なことに興味関心がありすぎて友人からもはや何専攻なのかわからないといわれますが…私もそう思います。



300号記念特集・学生のエッセー くにおん図書館を使い倒せ！

大学院音楽研究科修士課程（音楽理論） 1年 土屋憲靖

はじめに、私が音楽の道に進んだきっかけの話をします。キーボードでアニメソングを弾くのが趣味だった私は、ある日、地元の図書館で和声の本を見つけました。当時はアニメソングのコード進行をよく分析したものです。それからというもの和声の面白さに夢中になり、相互貸借を利用して和声の専門書を読み漁りました。これが私の音楽理論人生の始まりです。

もしも図書館がなかったら、私は^{くにおん}国音にいなかったかもしれません。そして今では、この素晴らしい音楽図書館をありがたく感じながら、存分に活用しています。昔も今も変わらず、私にとって図書館は無くしてはならないものなのです。

同志国音生のみなさん！この超便利なくにおん図書館をしっかり活用していますか？今回は皆さんに、私の図書館活用法をご紹介します。

開架を漁ろう。シラバス本や推薦図書、常に新しい発見があります。音楽事典、常用です。音楽家研究の棚、レポートを書くときはまずここを見ましょう！

論文を読もう！学術論文が読めるのは、大学図書館の大きな魅力

の一つです。本には載っていない専門的な事柄や最新の研究成果など、興味深いものも多いので侮れません。既存の楽曲分析などは論文から見つけることも多いです。卒業生論文の目録、サイニー、グーグルスカラー、音楽文献目録を活用しましょう。

図書館で勉強しよう。改装前のずらりと並んだ机で、作曲の学生が熱心に課題を解いていた光景が、懐かしく思い出されます。そんな姿を見ながら、私も頑張ろうと思ったものです。改装された今でも、時折そんな姿に出会うのは変わりません。私もレポートを書くときなどは、一日中図書館にこもります。なんでもその場で調べられまし、家でやるよりも集中できるのも良いところです。そして空調代が浮きます！

レファレンス、自分ではたどり着けなかった資料を紹介されたときは聞いてよかったですと思いました！

相互貸借を利用しよう。TAC、これを使えば音楽以外も最強です。カーリルというサイトで、自治体の図書館も含めた一括検索をするのがおすすめです！

つちや のりやす ● 大パッサ、[兄を扮したシンフォニア]発売だ。自作の逆行カノン(回文)です。

300号記念特集・学生のエッセー

「ぱるらんど」と私

演奏・創作学科弦管打楽器専修（オーボエ）2年 三宅彩葉

仮にも活字好きとは言えないこの私が、毎回の発行を待ち遠しく思い、今では愛読書?とまでなっているのが、この「ぱるらんど」です。

「ぱるらんど」と私との出会いは、1年次のとある授業の中でのことでした。その時の担当の先生から「この言葉を感じながらもう一度吹いてごらん」と言われ、紹介されたのがこの「ぱるらんど」に掲載された記事の中の一節でした。

そこには『君にはこの音符は何に見えるか?』『自分にはこの音符の一つ一つが大切な命に見える。不必要な命は一つだってないのだから音符も同じだよ。君は随分音を殺しているね。』音符は目で読むものではない。耳で聞いて歌うことがまず大切で、そこに心が動く息が吹きかき演奏したくなる。どんな音もパーソナリティを持った大切な『命』なのだから」といった内容のものでした。

その言葉に深く感銘し(今まで一体私は何を考え吹いていたのだろう、いや何も考えてはいなかった)と猛省したのを今でも覚えています。

そして好奇心に駆られた私は(他にはどんな記事が載っているのだろうか、どんな素敵な言葉があるのだろうか)と早速図書館へと足を運び、過去に発行された「ぱるらんど」を一気に読み漁ったのでした。

音楽的な知識や技術がまだまだ未熟な私にとって「ぱるらんど」の記事ひとつひとつが新鮮で、どれも興味深いものでした。音楽の奥深さに改めて気づき、音楽を学んでいくことを誇りにさえ思えるものでした。と同時に、何度か図書館に足を運ぶうちに、私はこの図書館という空間に心地よさをも覚えるようになっていました。

「ぱるらんど」以外にもたくさんの書籍や楽譜、CD、DVD等が揃っている図書館。それらに囲まれながら過ごす時間には、音大生であることを自覚させ好奇心を刺激してくれる何とも言えない心地よさがあります。あのたくさんの書籍や楽譜、CD、DVDなどに囲まれながら過ごす心地よさ。みなさんも是非図書館に足を運び、心地よい空間で心地よい時間を過ごしてみませんか。

みやけ あやは ● 必ず座れる通学電車の西武線！電車での時間の活用法、何か良いアイデアありましたら教えてください。